



■日時:令和8年8月10日(月) ■会場:講演/3階ウミネコシアター 観察/4階外シンボルコート
参加者:マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ会員39名・家族25名・関係者7名・観光課・八戸警察署5名・来賓2名 計79名

(協力)国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所
八戸市・イカの街はちのへ連絡協議会・八戸いか釣漁業協議会
一般社団法人 青森県水産振興会

趣 旨

- イカの水揚げ量日本一を記録している八戸の魚「イカ」について、八戸ならではの視点から生態や漁業を学ぶことで海・イカ・人間の深い関わりと伝統を学ぶ。
- 当活動を通して漁業や環境変動がイカ資源へ及ぼす影響を知り、海を守り、資源を適正に管理していくことの大切さを学ぶ。
- 海洋、水産事業には、幅広い多くの業種があり、できるだけ実際の現場で働いている人や研究者、実務者の方々の生の声(話)を直に聞くことによって、将来携わる職業の選択の幅を広げることを目的とします。

スケジュール

- 9:30 受付開始
- 10:00 挨拶
- 10:10 イカに関わる講演
- 10:30 閉式
- 11:00 イカの観察
- 11:30 イカの観察会
- 11:40 体験学習終了
- 12:00 詐欺防止コラボ水槽除幕式
- 12:30 挨拶、レポート作成
終了、解散



10:00 開会式



マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ
シニア会長 高橋 晃様

皆さんはなぜ八戸イカの日という日が出来たか
知っていますか？八戸市にとってイカは切っても
切れない存在です。それはなぜかということも
今日の活動で知ることができます。八戸水産資源
研究所の方々ののおかげで、ここでしか見られない
だけでなく、さらに毎年違う種類のイカを見ることが
出来ます。初めて参加する会員は新しい発見を
楽しんでください。去年も参加した会員は、去年より
も不思議を見つけるのが宿題です。

皆さんには、「今まで分かっていたいなかったことを
どれだけ発見できるか」という力をつけてもらい
たいです。知識を多く持っているよりも大事な事
です。今日は一緒に勉強しましょう。



私たち水産研究・教育機構では、水産に関する様々なことを研究
しています。例えば皆さんの食卓に上がるマグロやウナギの養
殖についても研究しています。また八戸の海ではどのように網を
使えば 魚を獲ることが出来るのか、どんな魚がどのくらいいて、ど
んな生活をしているのかを研究します。

イカの目大研究を通じて、イカ自体、もしくはイカの研究に興味
を持っていただければと思います。



マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ
ジュニア会長 井上 貴之様

八戸はイカの町として有名ですが、近年はイカが
獲れなくなってきました。何故獲れなくなってきた
のかを考えてみましょう。また、不思議だと思うこと
をたくさん見つけてください。どんな疑問も質問し
てみてください。大事なことは不思議に思う事で
す。例えば研究者は、たくさん知識を持っているだ
けでなく、これは何だろう、何故だろうという疑問を
発見できる人がなれます。疑問を発見できる人にな
りましょう。そしてイカの目大研究の中で見つけ
た疑問をレポートに書いてみてください。

今日の最後に、皆さんがどんな疑問を見つけた
のかを楽しみにしています。水産資源研究所
の皆様、よろしくお願ひ致します。



国立研究開発法人 水産資源研究所
底魚資源部 副部長 成松 庸二様

10:10 イカに関する講演



講師
国立研究開発法人 水産資源研究所
底魚資源部 研究員 時岡 駿様

1. 八戸市(青森県)とイカの関係

- ・青森県はイカの消費、水揚げ量ともに日本一
- ・八戸は全国有数のイカ産地
- ・八戸の水揚げ金額1位はイカ
- ・イカは「八戸のさかな」にもなっている

全国で水揚げされるアカイカの
ほとんどは八戸が占めています!!

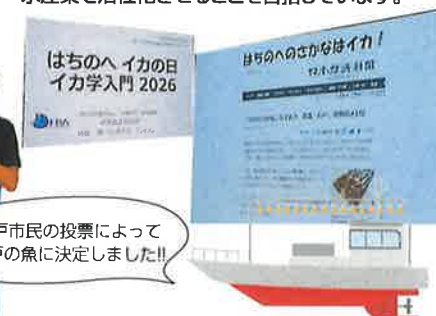
2025年の八戸水揚げ金額
約100億円のうち、
70%はイカ!!



国立研究開発法人
水産研究・教育機構
Japan Fisheries Research and Education Agency

水産研究・教育機構とは

この分野における我が国最大の研究・教育機関
であり、全国各地に拠点を配置しています。当機構
は、水産業が抱える課題を解決するため、水産分野
における研究開発と人材育成を推進し、その成果
を最大化し社会への還元を進めることで、我が国の
水産業を活性化させることを目指しています。



2. 八戸で水揚げされるイカについて

- ・主にスルメイカ、アカイカ、ヤリイカの3種類
- ・種類によって住んでいる場所が違う
- ・海の暮らし方も種類によって違う

ヤリイカは卵を海底近くにくっつけるため、浅い海で生活
します。逆にスルメイカは、卵が浮かぶので、陸から離れた
深い海でも大丈夫です。

	スルメイカ	ヤリイカ	ヤリイカ
生息地	全国の浅い海から 深い海まで幅広い	陸に近い 狭い範囲	太平洋北部全域に とても広く生息
暮らし方	南の海で冬～春に生まれ、 夏～秋にかけて太平洋を 北上する。その後、産卵のため 日本海を通って南へ向かう。	200mより浅い海で一生を 過ごす。冬に大人になり、 卵を産む。	太平洋北部を一周する ように一生を過ごす。
卵	風船状の袋の中に何万個も の小さな卵が入っており、 海中に漂わせる。	房状のゼリーの中に 小さな卵が入った物を、 岩などにくっつける。	スルメイカと同じ方法 で産卵する

3.イカクイズ

Q1 イカは何の仲間?

- 1.魚の仲間 2.エビ・カニの仲間 3.貝の仲間

A1 3.貝の仲間

Q3 本当にいるのはどんなイカ?

- 1.光イカ 2.子育てするイカ 3.空を飛びイカ

A3 全部いる



腕が8本のタコイカというイカがあるので、腕の本数では完全に区別できません。また、メンドゴはひれのあるタコなので、ひれでも区別は難しいですね。

深海に行くほど、光らないイカは逆に珍しくなっています。ひれのあるタコのオオメンドゴや、鋭いツメのデカギイカの仲間など、実物を用意しているのでイカの観察で実際に見てみましょう!

タコの吸盤は腕から直接生えています。一方イカは腕から柱のようなものが伸びていて、その先に吸盤があります。吸盤のトゲが鋭くなっているイカもいます。

最近の研究では、オウムガイはアンモナイトよりモイカやタコに近い存在とされています。

Q2 イカとタコの違いは?

- 1.腕の数 2.ひれのある、なし 3.吸盤の形

A2 3.吸盤の形(1.2も半分正解)



11:00 イカの観察

様々なイカを実際に触れて、解剖する観察会を実施しました。講師は引き続き、時間短縮です。今年は8種類180杯のイカの他、有名でありながらなかなか採集することができないメンドゴの仲間「オオメンドゴ」もご用意していただきました。



Q イカは泳ぐときにどうバランスをとるんですか?

A 例えばスルメイカは、一番外側の腕が舵をとるような役割をしています。



Q 発光器は何のためについているんですか?

A エサの魚などを襲う時に、エサから見えなくするために。水面側を見上げると、キラキラしているように見えるため、光ることは逆に隠れることになるんです。

Q 昆虫を食べるイカはいますか?

A 昆虫を食べるイカは「知られていません」。いないと言い切ってしまうと見つかった時にウソになってしまうからです。

大人気のオオメンドゴにみんな集合!!!

やっと骨を取り出せました!!!



11:40 八戸警察署 詐欺防止コラボ水槽 除幕式



八戸警察署刑事生活安全官 川口 秀明様

野里警察署長より挨拶を預かってきましたので、代読させていただきます。皆さんは特殊詐欺という言葉を知っていますか?ウソの話を信用させてお金をだまし取る犯罪の事です。昨年は一年間で4万3,000件の被害があり、被害総額は3,200億円にのぼります。今年は昨年を上回るペースで増加しています。若い世代の被害が増えており、詐欺を知っている人が多いにも関わらず、巧妙化する手口によって被害が減りません。今回のコラボ企画を特殊詐欺について知るきっかけにして欲しいと思います。そして学んだことを周りの人へ伝えてほしいです。この展示にご協力くださいましたマリエント吉井館長様をはじめ、職員の方々、本日お集まりくださった関係者の皆様の健闘とご多幸を祈念申し上げます。

8月10日より、八戸警察署と八戸市水産科学館マリエントの合同で、特殊詐欺防止を呼びかけるコラボ水槽の展示をスタートしました。展示開始の式典には「ちきゅう」たんけんクラブの会員も参加しました。また、マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ名誉会長坂本美洋様をはじめとして来賓の方々にご参加いただきました。





八戸市水産科学館マリエント館長 吉井 仁美

八戸警察署様とコラボ水槽を実施できることをとても嬉しく思います。今回で三度目となりますが、今日は私たち当クラブ名誉会長坂本様、八戸市観光課次長兼課長下村様、刑事生活安全官川口様をお迎えに開催できます事に、心より感謝申し上げます。先程川口様よりご説明のあったように、前は詐欺の被害といえどお年寄りのイメージでしたが、残念ながら被害を受ける側、闇バイトなど加害側どちらも若い世代が増えていることを警察の方々はとても心配しております。当クラブ会員を始めとする多くの方に詐欺へ注意する意識をもって夏休みを過ごして欲しいという思いでこの企画を実施しました。当クラブは様々な体験をすることを目的の一つとしておりますが、ここ八戸や皆さんそれぞれの地元には将来なりたい仕事がたくさんあります。その一つが警察のお仕事だと思えます。今回も分かりやすく学ぶことができるような様々な工夫をして企画をさせていただきます。将来警察官になるぞというたんけんクラブの会員ができてくれることを心から願っています。今日はイカの勉強、特殊詐欺の勉強と充実した日になると思います。ぜひ夏休みを安全に過ごして下さい。八戸警察署の皆様、ご来賓の皆様、ありがとうございました。



マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ
名誉会長 坂本 美洋様

今回三回目となるコラボ企画ですが、たんけんクラブの皆さんはこの夏休みを利用して詐欺について知ってほしいと思います。詐欺の被害にあうと生活ができなくなってしまいます。謎解きをしながら詐欺について学ぶことができると聞いています。たんけんクラブの皆さんが集まるこの良い機会に、詐欺について詳しくなって欲しいです。そしてお家の家族や友達にも伝えて下さい。みんなで安全に過ごしていきましょう。ジュニア、シニア、ブラチナ会員合わせて180名以上のメンバーとなっています。「ちきゅう」たんけんクラブができて19年目になると思いますが、素晴らしい組織になったと思います。活動に参加して自分自身を磨いていただければと思います。また、ご父兄の皆様のご理解のうえ参加して頂いていることに對して、名誉会長として感謝申し上げます。八戸警察署の皆様にはこのように継続してご協力いただけることを大変すばらしく思います。県民の幸せ、地域の安全の為に頑張っていたきたいと思えます。頑張ります！



12:00 レポート作成

マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ
ジュニア会長 井上 賢之様

今日は水産資源研究所の皆様、子どもたちの為に様々なお話ありがとうございました。不思議だなと思ったことを中心にレポートをまとめてみて下さい。毎年参加している人は今までと今年の不思議の違いというものを書ければ素晴らしいですよ。そうすれば自分だけのオリジナルなレポートになると思います。レポートは最後冊子になって皆さんに届きます。改めて水産資源研究所の皆様ありがとうございました。それでは皆さん、レポート頑張らしましょう。

マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ
シニア会長 高橋 晃様

皆さんイカを触ってみて色や感触はどうでしたか？私は7つほど不思議に思いましたので、帰ってから調べようと思います。レポートを書くにあたり、分かった事だけでなく、疑問に思ったことを書いてもらえればと思います。

水産資源研究所の方々のおかげで貴重な体験をさせて頂いたので、この体験をみんなの未来に繋げていけるよう頑張ってレポートを書いてみてください。



今回のイカの巨大研究では、初参加の会員が多く、時間いっぱいまで観察に集中しており、多くの方にイカについて発信ができたのではないかと思います。
水産資源研究所、八戸市、イカの街はちのへ連絡協議会、八戸いか釣漁業協議会、青森県水産振興会の皆様、ご協力頂きありがとうございました。また、除幕式開催にあたり、八戸警察署の皆様、たんけんクラブ名誉会長坂本美洋様、八戸市観光課長下村晃一様、多くの関係者の皆様、ありがとうございました。
今後ともマリエント「ちきゅう」たんけんクラブを宜しくお願い致します。